とらっく大賞に F－LINE

持続可能な加工食品物流

「超・物流」の創出に取り組む（18年10月）

2019年度のとらっく大賞に、Ｆ―ＬＩＮＥ（深山隆社長、東京都中央区）が決まりました。

メーカー６社（味の素、カゴメ、日清オイリオグループ、日清フーズ、ハウス食品グループ本社、ミツカン）のＦ―ＬＩＮＥプロジェクトを契機に、物流会社５社の機能再編と事業統合により類例の無い物流会社が誕生。「持続可能な加工食品物流」の実現を旗印に「超・物流」の創出に取り組んでおり、積年の課題である製、配、販の連携強化を促進するキープレーヤーとして、従来の物流システムに風穴を開けることが期待されています。

また、これまで従属的な立場に追いやられてきた物流会社の地位向上、流通チャネルの上流に位置するポジションを生かしたサプライチェーン（供給網）の「整流化」など、加工食品物流の世界を一変させるポテンシャルを秘めており、業界内外から大きな注目と関心を集めています。

歴代受賞者

13年度	全日本トラック協会青年部会

全国トラック青年経営者の20年来の悲願だった正式組織を、13年４月にスタートさせました。東日本大震災の発生後、緊急物資輸送に始まり、独自の募金運動や小中学校に対してのソーラー式扇風機・学校用品の贈呈、更にプロ野球親子観戦ツアーの実施など目を見張る大活躍で、トラック業界の地位向上に寄与しました。

14年度	国土交通省自動車局「トラガール促進プロジェクトチーム」

トラック運送業界の労働力不足が日増しに深刻化する中、女性の雇用・活躍に着目し、女性トラックドライバーの愛称を「トラガール」に決定するとともに、専用サイトを開設、プロジェクトをスタートさせました。「男性の職場」とのイメージの強い業界に新風を吹き込み、一般メディアにも取り上げられるなど、女性の新たな職域として広くアピールしました。

15年度	北海道トラック協会

トラック業界での長時間労働が深刻化を極める中、フェリー乗船時の拘束時間２時間を休息期間とする「改善基準告示の通達改正」を全日本トラック協会とともに働き掛け、労働時間規制の緩和につなげました。更に、労働基準監督署の通報を受けて実施する「改善基準告示違反に関する運輸支局の監査」の前に、貨物自動車運送適正化事業実施機関が巡回指導する手法も考案しました。

16年度	滋賀県トラック協会

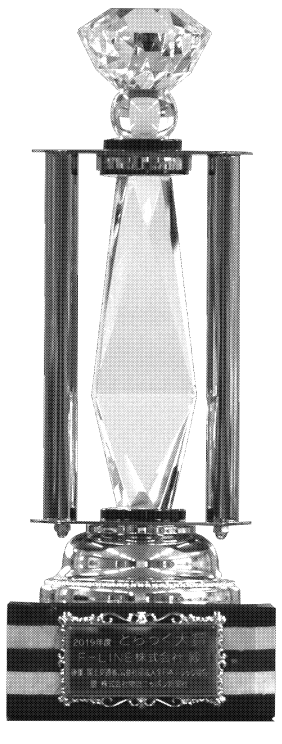
トラック業界での若年労働力不足を踏まえ、県内高校で運送事業の社会的役割や意義を伝える出前授業「物流キャリア教育」を15年度から展開。スライドやＤＶＤといった教材を自主制作し、高校生の採用拡大に取り組んできました。その結果、16年度は会員事業所で高校生35人を採用するなど、将来の人材確保へとつながる礎を築きました。

17年度	啓和運輸

トラック業界が抱える運転者不足や長時間労働、低賃金、後継者難といった多くの課題を広く知ってもらおうと、舞台演劇を15年と17年の２回にわたって企画・プロデュースしました。この取り組みはテレビ、新聞などの一般メディアで取り上げられただけでなく、ＳＮＳ（交流サイト）でも話題となり、トラック業界の社会的認知度と地位の向上、イメージアップに大きく貢献しました。

18年度	宮田運輸

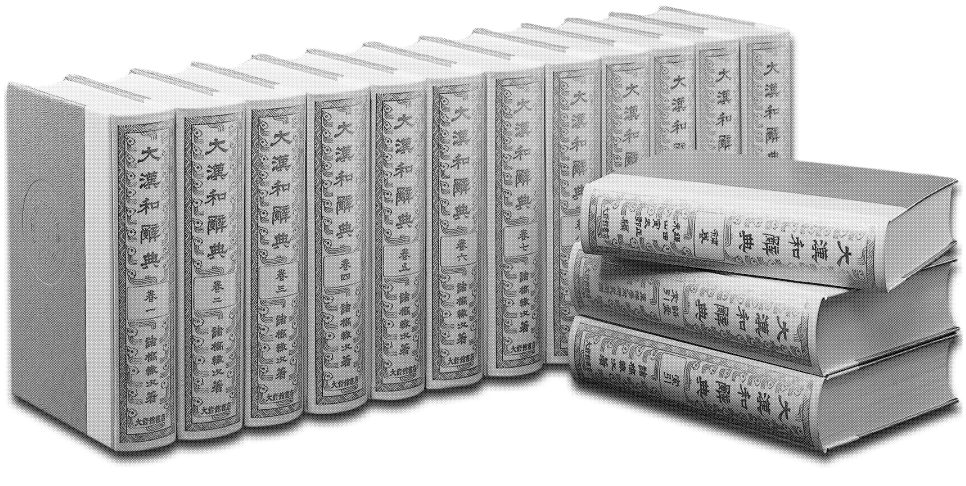
子どもが描いた絵をトラックにラッピングする「こどもミュージアムプロジェクト」を発足させ、事故防止とトラック業界の地位向上に貢献しました。ラッピングはドライバーに愛着と誇りを持たせるだけでなく、社会問題化しているあおり運転の防止にも効果を発揮。自社のトラック１台から始まった企画は国内にとどまらず、中国や韓国、米国などへの展開も計画されています。



2019年度とらっく大賞は F－LINE株式会社に決定しました!!

とらっく大賞規定

（名称）
第1条　この顕彰はとらっく大賞という。
（目的）
第2条　トラック運送事業の健全な発展、向上に寄与した個人または組織を顕彰する。
（事業）
第3条　顕彰は、原則として１事業年度１件とする。
（顕彰の方法）
第4条　顕彰は、次の通りとする。
①　正賞：トロフィー
②　副賞：『大漢和辞典』（大修館書店）



後援：国土交通省、公益社団法人全日本トラック協会　事業主体：株式会社物流ニッポン新聞社

（面担　吉田周作）